

異常気象分析検討会 平成27年度定例会
2016.3.7

今年度の活動報告 来年度の活動計画

気候情報課

平成27年度の活動報告(その1)

- 異常気象に関する情報の発表にあたって、要因分析について検討会委員の協力を頂いた
 - <4月> 2013年1月以降の米国南西部の少雨
 - <6月> 5月下旬のインドの熱波
 - <7月> 2014年初めからのタイの少雨
 - <9月> 2015年8月の日本の不順な天候
- 希望する委員へ全球SST感度実験実行のためのプログラム等の提供を開始
- 任期更新に伴う委嘱手続き
 - <6月:分析検討会、9月:作業部会>

平成27年度の活動報告(その2)

● 異常気象分析ツール(iTacs) Ver.5 の開発、公開 <11月>

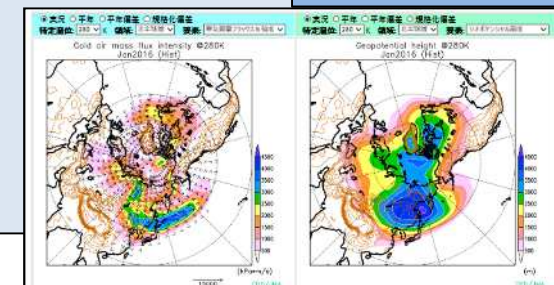
- ユーザーインターフェースの改善(Ruby on Railsの活用)
- GrADSの最新バージョン(ver.2.1)の採用により滑らかで綺麗な図が作成可能
- 1か月予報データ(アンサンブル予報データ、ハインドキャストデータ)のハンドリングが可能
- 新しい海洋データ同化システム(MOVE-G2)が利用可能

堀之内准教授(北海道大学大学院)らの電腦Ruby(GPhys)を利用

● 異常気象分析Webの拡充

- 寒気流出解析のページを掲載(プログラムは岩崎委員より提供)
- 新しい季節予測システム(JMA/MRI-CPS2)の3か月予報アンサンブル平均マップの追加
- LBMの計算結果に渦強制に関する要素を追加

寒気流出解析



平成28年度の活動計画

- 分析検討会の開催
 - ・3月頃に定例会
 - ・異常気象発生時に臨時検討会
- iTacsの改良
 - ・ガイダンス機能の追加
- 分析Webの拡充
 - ・JRA-55を用いたENSO統計資料の掲載
 - ・LBM実験結果の拡充(仮想熱源に対する応答)
 - ・熱帯低気圧積算エネルギー(ACE)の資料掲載
- オンライン会議システムの変更 <4月~>
 - ・気候系診断会議への参加方法や操作方法等が変更
- 異常気象分析作業部会の今後のあり方の検討